

3月11日の「東日本大震災」の後、幸福の科学学園より支援物資を届けさせていた関係で、陸前高田市広田地区コミュニティ推進協議会会長黄川田富八様、住民一同様より御礼状が届きました。

現在、テニス部のコーチとして、部員たちから慕われ、毎日指導をしてくださっている佐々木紫帆さん(18)の出身地が、岩手県陸前高田市であった関係で、テニス部顧問の柄澤が、幸福の科学学園の教職員の皆様やテニス部の父母の皆様、教え子の皆様に呼びかけたところ、非常に多くの支援物資が集まり、二度に分けて陸前高田市に届けました。現地では、直接避難所に伺い、支援物資を手渡してきましたが、震災直後の大混乱の中、感謝の気持ちを伝えられ、帰ってきました。

そんな避難所の一つ広田地区の皆様より、今回学園に対して御礼状をお送りいただきました。広田地区は半島の先にある集落で、今回の津波でほぼ全壊に近い被害を受けましたが、そんな困難にも負けず、立ち上がろうと必死の努力をされています。

(文責：柄澤)

幸福の科学学園 殿

御 礼 状

この度、当地を襲った「東日本大震災」に際しましては、早速、心温まるお見舞いの言葉や救援の品々を賜り、ご厚情の程、ありがとうございます。

早いもので、忌まわしい地震津波からまもなく三ヶ月となりますが、日時の経過と伴に死者、建物施設被害は甚大で、過去の歴史に無い未曾有の大災害と成りました。

まさに「津波にのみ込まれ町」と化しました。復旧、復興には長い年月を要すると思いますが、被災民、心を一つに再起の気持ちを強く持ち、復興に懸命の努力を致しております。これも皆様の温かいご厚情と激励があつてこそと感謝を致しております。

世界各国、国内各地から頂きました善意を心に刻み「浜っ子は負けない、ふるさと広田の復興」を合言葉に明日に向かって頑張っております。ありがとうございます。

平成二十三年五月

陸前高田市広田町字大久保九番地

広田地区コミュニティ推進協議会

会長 黄川田富八  
住民 一同



3. 11東日本大震災大津波襲来・広田町泊地区を襲う(正面漁協)